

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600451		
法人名	有限会社エルダーハウス		
事業所名	グループホーム千草		
所在地	静岡県三島市徳倉3丁目6-16		
自己評価作成日	令和 5年 1月 31日	評価結果市町村受理日	令和5年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600451-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 3月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一つ屋根の下で一緒に暮らしませんか!」グループホーム千草は既存の住宅でお年寄りとスタッフが家族的な雰囲気の中暮らしております。明るさ、音、におい等五感からの生活空間を快適に整え住み慣れた思い出ある家と違和感のない環境の中、安らぎのある生活を提供しています。四季折々のお花見・散歩・買い物・お墓参り等日々の体調に合わせて外出しております。毎日の食事作りにも力を入れ、そば打ちや和菓子を提供し笑顔を頂いております。神経内科専門医広小路クリニック木野先生の訪問診療、田村歯科医による訪問歯科診療、三島市医師会訪問看護ステーション、ペリー薬局薬剤師とのタイムリーな連携で24時間365日の医療体制が充実しておりターミナル期における尊厳ある看取りをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の自宅を改装した事業所であり、地域住民とのつながりは深く、「家庭的な暮らし」「地域に貢献」を目指して利用者・家族の希望に沿った暮らしぶりを支援している。コロナ禍により地域行事への参加制限が続いているが、日々の散歩や清掃時の挨拶や野菜の差入れ、家族の面会やLINEを活用した写真・動画の配信など、工夫をしながら関係の継続を支援している。職員手作りの食事、蕎麦打ちやケーキ作りなど、食事を楽しむ工夫を心掛けている。キャリアパス制度を導入し、個人面談や研修にて職員の処遇と資質向上を図り、職員が働きやすい環境整備を心掛けている。利用者の日常情報は、各種ケア記録と毎月の会議にて情報共有を図り、職員全員の意見と医療関係者からの意見を取り入れて、介護計画の作成につなげている。室内の環境は、感染対策を取りながら、五感を刺激することに配慮して、明るさ・匂い・音・温度・湿度等、安全で清潔な環境作りに注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一つ屋根の下で一緒に暮らしませんか」の理念のもと、楽しく、明るく 安定した生活が出来るように、管理者と職員は、その理念を共有し実践している。	管理者は、利用者・職員と共に「家庭的な暮らし」を目指し、事業所開設時から環境作りにも努めている。管理者・職員は、月1回全体会議にて情報共有を図り、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス影響で地域の出し物等が自粛しているため交流が途絶えがちだが、散歩時の挨拶や清掃など出来る範囲で行っている。	コロナ禍の中、地域行事への参加は制限しているが、管理者が長く住む地域であり、近隣住民とのつながりは深い。事業所理念「地域に貢献」を心掛け、散歩や清掃時の挨拶や野菜の差し入れなど、コロナ禍の中でも交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援とその方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではコロナウイルス感染対策を十分に考慮しながら積極的にホーム隣組の民生委員 包括支援センター 介護相談員 家族を招いて意見交換を行いサービス向上に活かされている。	コロナ感染状況をみながら、2か月に1回対面または書面にて開催している。書面開催時も、家族、行政・地域代表の委員等に資料を配布して報告を行うと共に、意見を聴き取る仕組みを整え、意見交換と情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から密な連絡を取り協力関係を築いている。地域包括センター グループホーム連絡会等情報交換でホームの運営やサービスの質の向上 地域との交流に役立っている。	運営推進会議議事録の持参や三島市GH連絡会参加時に、行政や他GH事業所との情報共有・意見交換を図っている。管理者は日頃から、市担当者とこまめに連絡をとり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを管理者 職員が正しく理解し取り組んでいる。また身体拘束の研修も受講している。	指針・マニュアルを整え、身体拘束適正化委員会は2か月に1回開催し、運営推進会議でも報告している。管理者・職員は、年2回の職員研修により身体拘束に関する理解を深め、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学び、実践している。また虐待防止の研修も受講している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、活用支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して専門用語をできる限り使わず十分な説明と利用者や家族に理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染対策のため家族会(家族 職員 医師 看護師 包括支援センター ケアマネ等)が一同交いして集まることが出来なくなったが運営推進会議や個々の来問で意見や質問で交流を行っている。また家族の訪問が多い為、日頃の生活を常に家族が把握している、要望意見は迅速に職員と話し合い実行している。	コロナ禍でも感染状況をみながら、家族面会を続けている。面会時には必ず声を掛け、家族からの意見の聴き取りを心掛けている、SNSを活用して日々の様子を写真・動画を添えて伝え、家族からの意見や要望は、管理者・職員が都度話し合い、迅速な対応を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者兼管理者と職員は、毎朝の申し送りや朝礼で、意見交換がある。また、毎月25日には、全員で意見交流を実施し、反映させている。	事業所はキャリアパス制度を導入し、年1回の個人面談や資格取得に向けた研修支援等、職員の処遇と資質向上に努めている。管理者は、常に職員との意見交換を心掛け、働きやすい環境作りの整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心をもって働ける職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者(管理者)は、法人内外の研修に進んで参加出来る機会を設けている。職員1人ひとりの技術の向上するよう研修も積極的に取り組んでいる。		

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者(管理者)は、同業者との会議や研修にて交流しサービス向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要な時間を充分にかけ入居する前に本人との信頼関係を築いてから入居していただき、不安を減らし、安心してホームでの生活ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間をかけ家族との信頼関係を築いている。困っている事、不安 要望を理解し、蜜な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一つ屋根の下で暮らす」をモットーに共に過ごし支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共に本人を支えあう関係にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係維持を支援している。墓参り 結婚式 外食 法事等家族からの要望があれば職員が付き添い、今までの交流が途切れ無い様に支援している。	コロナ禍の中でも感染防止に注意を払いながら、利用者・家族の要望を聴き取り、馴染みの人や場との関係継続を支援している。長年勤務する職員も多く、面会・外出・電話・手紙など、利用者家族の意向に応じた対応をすることができる。	

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい生活している。(声掛け 見守り 励まし)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係が続き、親戚同様の行き来がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活暦を大切に、本人の希望意向を聞き自宅で過ごすと同じように本人重視に努めている。	入居希望時に、管理者・ケアマネジャーが自宅を訪問し、利用者家族の暮らしぶりや意向・要望等の情報収集を行っている。毎日の申し送りや毎月の会議にて職員間の意見交換を図り、都度利用者・家族の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態に合わせた一日の過ごし方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングし、介護計画を作成している。また、医師 看護師 ケアマネ 介護職 利用者 家族が参加の担当者会議を実施 毎月25日に個々の担当者が経過報告をして全員で課題 ケアのあり方を見直しをしている。	日々の介護日誌や「ケア記録詳細(単日)」にて、利用者の日常情報を共有している。毎月25日に行う会議では、担当職員の経過報告を基に職員全員でカンファレンスを行い、モニタリング・介護計画の作成に繋げている。家族へはLINEを活用し、都度報告する仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌(個別の記録)を職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して、安全で豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人 家族等の希望を大切に適切な医療を受けられるように、医療と事業所の密な関係を築いている。	協力医往診(月2回)・協力歯科医往診と月3回の看護師の訪問により、医療連携を図っている。看護師は24時間対応にて、情報共有と相談を受けることができる。他科受診のための通院は、家族の協力を得ながら、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との協働 密に報告 相談 連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院 退院時のためにも、医療機関との密な関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」について話し合いをしている。また医師 訪問看護師 を交えて家族と終末期対応等話し合う機会が毎年あり、また重度化した場合は、密に連絡を取り合い協力して看取りを行っている。	入居時に指針を示し、事業所での対応を説明して同意を得ている。入居後は毎年、医師・看護師と共に、終末期の対応を話し合う機会を設けるとともに、急変時には再度説明の上、家族の意向に沿って対応している。管理者・職員は、定期的に研修を行い、適切な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変 事故発生に備えて、日頃から訓練 研修を実施している。		

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 消防設備関係者と訓練をする。また11日を災害の日と決め、食事の支度等電気 ガスを使わない非常時体制の1日を過ごして非常時に困らない生活を日頃から身に付けている。	災害対策訓練は、年2回テーマを決めて実施している。毎月11日は「災害の日」として電気・ガスを使用しない模擬訓練を行い、備蓄品の利用・管理と非常時の暮らし方を確認している。EV車を購入し、停電時の電源確保に備えている。	訓練ごとにテーマを決めて実施していますが、課題改善のためには次回訓練への継続が必要なことから、課題を継続した訓練計画の実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、地域住民との連携を含めた計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重するケア「パーソンセンタードケア」の10か条を居間 職員のトイレに掲示し常に利用者さんに寄り添い、その人の尊厳を思いやるケアに取り組んでいる。	個人情報保護やSNSの利用、写真掲載について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。管理者は、「パーソンセンタードケア」を掲げ、定期的に職員研修を行い、利用者の尊厳に配慮した対応を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望の表出や自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を聞きながら、季節ごとの手作りの献立を提供している。手打ち蕎麦など、家族近所の人を交えて食事を楽しんでいる。お誕生日には、手作りのケーキを皆で作ってお祝いする。重度化しても最後まで皆と同じ様に食べられる様に工夫している。	「家族的な関係で暮らす」ことを大切に考え、職員手作りの食事を提供している。利用者は職員と共に、能力に応じて調理・配膳や片付けを行っている。手打ち蕎麦やケーキ作り、外カフェなど、季節に応じた、食事を楽しむ取り組みを実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、工夫と創意の食事を提供している。水分量も食事以外にも何時でも飲めるように職員が巡回している。		

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食事毎 口腔ケアを実施している。訪問歯科診療を受け、口腔ケアの指導を受け口腔内の清潔保持を励行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ排泄の自立支援を実施している。	「排泄チェック表」の時間・回数・量等の記録を基に、個々の排泄パターンを把握してトイレ利用を支援している。職員全員が仕草サイン癖等の情報を共有し、余裕のある排泄誘導に努め、失敗を防ぎ羞恥心に配慮した対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為 食事や飲み物の工夫 運動等個々に合わせて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、個々にそった支援をしている。	週2回・午前中を基本として、利用者の体調、好みの時間やタイミングに合わせて入浴を支援している。低体温予防効果もあることから、湯温の設定や同性介助等にも配慮して、楽しく入浴できる声掛けの工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、休息したり、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用、用法、容量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認、報告を密に実施している。薬が変わった時は、医師から説明があり、報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援をしている。散歩、カラオケ、編み物、読書など		

静岡県(グループホーム千草)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援をしている。ドライブ 買い物 花見 毎日の散歩等々	感染状況をみながら、ドライブ・買い物、近隣の散歩など、利用者個々の状態と希望に合わせた外出を工夫して支援を継続し、外出時の様子はメールで都度家族へ報告している。外出は五感を刺激する良い機会と考え、コロナ後を見据えた対応を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話 手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まわりを山で囲まれているので、朝は、鳥のさえずりで起き、山の木々や庭の植木を居間から眺め季節の移り変わりを感じます。また、照明は、食事 夜は暖色にしたり、天気の良い日は、明るしく気持ちが、落ちこまないようにしている。インフルエンザや風邪対策として湿度は特に、気をつけている。	管理者・職員は、鳥のさえずりや庭の植木等により四季を感じることができる環境を大切に考え、居心地のよい共有空間作りを心掛けている。感染防止対策として、毎朝の換気と加湿器・次亜塩素酸生成器による空調管理を図り、安全で清潔な環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間における1人ひとりの居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。利用者の馴染みの家具を置き、家族の写真や自分で作った人形を飾っている。テレビ 時計 机を置き、スタンドで本を読んでいる。	居室は、利用者の希望と体調に合わせて、選んでもらう。使い慣れた家具や馴染みの品等を持ち込み、利用者の状態に配慮した居室作りを心掛けている。担当職員を中心に利用者・家族と相談して、衣替え等を行い、季節に合わせて支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		